

常盤塾議事録

日時：2017年6月10日（土）10：00～13：00

場所：新国際ビル MBFハウス

文責：常盤塾ライター 秋元裕太

メンバー：常盤先生、片平先生、出井さん、松永さん、古城さん、大下さん、丸山さん、松山さん、白井さん、古川さん、安梅さん、

アジェンダ

1. 一分間スピーチ
2. 常盤先生のお話し
3. 松山さんの発表 『サピエンス全史 第1部 認知革命』

(1) 一分間スピーチ

・松永さん

GEが本社をボストンに移した。シーポート地区。オープンイノベーションを起こす。

・白井さん

食文化について。大豆の化石が見つかっている。発酵がライフスタイルに取り込まれている。

・大下さん

縄文時代の定義は3万年前～2万年前。第1期、第2期の分類がおかしい。似たような事象は現代日本にもあるのでは。

・片平先生

財団の役員をやってるが、それを辞めることに。数々の制約書があり、失礼な誓約がまかり通っているのはいかがか。

・丸山さん

ビールメーカーに関して。アサヒは新鮮なビールを卸すために整然とした整

備。キリンは小売店に顔を繋ぐという、ある意味、非効率なやり方。

・松山さん

韓国を訪れた。大統領の交代や北朝鮮のミサイル発射がありながら、雰囲気はそれほど変わらず。日本の対応は過敏すぎる面もあるのでは。

・常盤先生

先端はおこがましい。先端とは、異端の研究をしてそれが人に認められたときに初めて先端となる。

・古川さん

科学と非科学の境目。データで検証。10年後の社会はどうなっているかと考えると破綻してしまう。そういう研究がもっと進むと良い。

・古城さん

東京のプラネットディフェンスプラクティス。星が東京に落ちたらどうするのか、以前会社で言ったことがあるが笑われた。その後映画で取り上げられどうだと思った。

・出井さん

子供の発想は自由。子供が、絵日記帳のマス目を塗りつぶしていた。何をやっているのかと思えば、オセロをやっていると。マス目を字を書くところと決めつけてしまっていた大人の発想では、思いもつかないこと。

(2) 常盤先生のお話し

「相対化」に関して。

『知の技法』という本。知とどう向き合い、知をどう創り出していくか。日本では読む人＝受け手による様々な捉え方を許容するが、西洋では読者に任せるという姿勢はない。日本の論理が分かるのは、他国の論理と突き合わせる＝相対化するから。同様に、外国語を学ぶ意義は、自国の言語や文化を相対化することにある。また日本と西洋の発想の違いとして、日本はズームインの思考で

西洋はズームアウトの思考であることが挙げられる。年月日に関しても、日本は年→月→日だが、西洋は日→月→年の順。

自分の殻に閉じこもるのではなく他の世界と触れて、無意識に獲得したものを相対化して理解することが大事。

対極の認識が重要。世界のグローバル化の流れの中での、トランプの自国第一主義。「アメリカの物を買え」という議論は馬鹿らしい。日本製品に品質で劣る物を日本に買えということ自体がおかしい。

相対化とは、すなわち楕円思考。局面に応じて重みが変わっていく。

では、相対化するにはどうしたら良いのか。それは、自己を綺麗にしておくこと。人間は過去の欲望にとらわれがちだが、それらを取り払うこと。謙虚になる。例として、韓国大統領のムン・ジェインの言葉「韓国にある積年の悪弊を断ち切る」あるいは、耶律楚材（チンギスハンの家臣）の言葉「一理を興すは一害を除くにしかず」などがある。

企業活動で大切なことそれは、創造と革新。コンサルの台頭で4Pなど新しい考えに目を惹かれがちだが、本質はそこではない。もっとシンプルなもの。GEのウェルチの言葉「シンプルイズベスト」。企業活動における3つの原理原則とは、「人を大切にする」「長期の展望を持つ」「きらめく旗を持つ」ではないか。

～以下、ディスカッション

腹で感じるものをどれだけ研ぎ澄ませるか。様々な環境で腹を殴られないと、感度は下がっていく。

異端は先端の卵。異端を大事にするのが良いというが、人々が先端と認識できないような飛び抜けた異端をどう評価するか。

(3) 松山さんの発表

(『サピエンス全史 第1部 認知革命』)

- ・世界は今、産業活動が引き起こす絶滅の第3波の中にある。この絶滅の波を生き残るのは人類とその奴隷の役割を果たす家畜のみ。
- ・認知革命の定義
→「7万年前～3万年前にかけて見られた新しい思考と意思疎通の方法の登場」
- ・認知革命における重要なキーワード＝「虚構」
→fictionの訳語。「虚構」という訳出は果たして適切か。一般的に「虚構」というワードは負のイメージだが、本書中においては正の意味で用いられている。ここでの「虚構」は存在しないものについて情報を伝達する能力、すなわち「夢見る力」。
- ・ホモサピエンスによる共鳴集団の形成
→食料がコミュニケーションの手段になる。自分の家族を超えてより広い範囲に食料を分け与える過程において、声や表情を用いて相手を認識する必要性が生じ、共鳴集団が形成された。狩猟採集民の平均的な集団サイズは150人～160人ほど。
- ・人類の出アフリカ
→オーストラリア到達とヨーロッパ到達はほぼ同時期で、およそ10万年ほどかかった。また遺伝子自体はアフリカから南アメリカまで同じだが、移動の過程において人間が環境の変化に適応していった。
- ・南アフリカのケープタウンに位置するブロンボス洞窟
→7万5000年の洞窟。貝殻によって作るビーズが発見されたり儀式が行われていたことが分かったりするなど、美的感覚や象徴的思考能力を身につけていた人類が存在していた証。
- ・現在の私たちの生活や政治制度を理解するには、7万年前の認知革命から1万2000年前の農業革命までの期間を、どう生きたかを知る必要がある。
- ・AIの与える影響

→AI×目利きはとんでもないパワーを持つ？過去の情報をいかにして使いこなすか。

○次回以降の発表予定

- ・7月 『サピエンス全史 第2部』 (発表者：大下さん)
- ・8月 『サピエンス全史 第3部』 (発表者：松永さん)
- ・9月 『サピエンス全史 第4部』 (発表者：庄司さん)